

## 所得および価格の変化が消費財需要量におよぼす影響

正常財の場合，価格の上昇による代替効果も所得効果も需要量を減少させる．したがって価格の上昇は需要量を減少させることになる（需要法則．）下級財の場合は，価格の上昇による所得効果が需要量を増加させるので，需要法則に反する現象が起こることがある（とくに，低所得層にとっての生活必需品．）

### I. 消費者の意思決定

- A. 予算制約の下での効用最大化
- B. 予算制約線と無差別曲線の接点

### II. 所得変化の影響

#### A. 所得支出曲線

##### 1. 需要の所得弾力性

$$\text{需要の所得弾力性} = \frac{\text{消費量変化の割合}}{\text{所得変化の割合}}$$

##### 2. 消費財の分類

###### a. 正常財と下級財

- (1) 正常財 需要の所得弾力性  $> 0$
- (2) 下級財 需要の所得弾力性  $< 0$

###### b. 必需品と奢侈品（贅沢品）

- (1) 必需品 需要の所得弾力性  $< 1$   
所得に占める支出額の割合は，所得が増加すると小さくなる．
- (2) 奢侈品 需要の所得弾力性  $> 1$   
所得に占める支出額の割合は，所得が増加すると大きくなる．

#### B. エンゲルの研究

##### 1. エンゲルの法則とエンゲル係数

###### a. 食費の所得弾力性 $< 1$

###### b. エンゲル係数 = $\frac{\text{食費}}{\text{所得}}$

##### 2. 豊かな社会の問題

- a. 必要な食費
- b. 贅沢な食費

### III. 価格変化の影響 — 需要法則の説明

#### A. 価格変化の二つの効果

- 1. 相対価格の変化 → 代替効果
- 2. 実質所得の変化 → 所得効果

#### B. 価格下落の影響： 正常財の場合

- 1. 代替効果 → 相対的に高価 → 需要量減少
- 2. 所得効果 → 実質所得下落 → 需要量減少

#### IV. ギッフェン逆説

##### A. 下級財（劣等財）

1. 実質所得減少の効果： 需要量の増大
2. 実質所得増大の効果： 需要量の減少

##### B. ギッフェン逆説が起こる条件

###### 1. 価格上昇の影響

- a. 代替効果 → 相対的に高価 → 需要量減少
- b. 所得効果 → 実質所得減少 → 需要量増大

###### 2. 代替効果と所得効果の大小関係

- a. 所得効果小 → ギッフェン逆説は起こらない。
- b. 所得効果大 → ギッフェン逆説が起こる。

### 参考文献

教科書・第 4 章。

家計調査特別集計結果による家計の状況について（勤労者3人（夫婦子1人）世帯）  
 平成8年—平成12年平均（50分位中第1—第20分位）

